

地方鉄道の新たな可能性を求めて 貨客混載列車！ 出発進行！

北越急行株式会社

2019年10月25日

【1】 概要

旅客鉄道事業を営んでいる北越急行株式会社は、宅配事業を営んでいる佐川急便株式会社と、旅客列車を利用し幹線輸送荷物を輸送する貨客混載輸送を平成29年4月18日から実施しています。宅配便の輸送をモーダルシフトすることにより、温室効果ガスの削減などが図られました。

【背景】

- 北越急行（株）：特急「はくたか」廃止による大幅な運輸収入の減少を補完するために輸送余力を活用できないか検討中
- 佐川急便（株）：輸送ネットワークの効率化による配送品質の向上を実践中

⇒ 両社の意図が合致

平成27年12月から協議開始



【2】 特徴

特徴①

同じ車内で、
お客さまとカーゴをお運びしています



車椅子スペースの1つにカーゴを設置

対応その1：安全の確保

カーゴの固定

北越急行（株）所属の全ての車両
12両にラッシングレールを取付け、
カーゴをラッシングベルトで固定。



ラッシングレールの取付け

特別使用のカーゴを作成

- 自走防止のため、ストッパーを設置。
- お客さまとの接触事故防止のため、カーゴの角に緩衝材を貼り付け。
- 盗難防止と個人情報保護のため、荷物が見えないようにカーゴを金属板で覆う



緩衝材

ストッパー

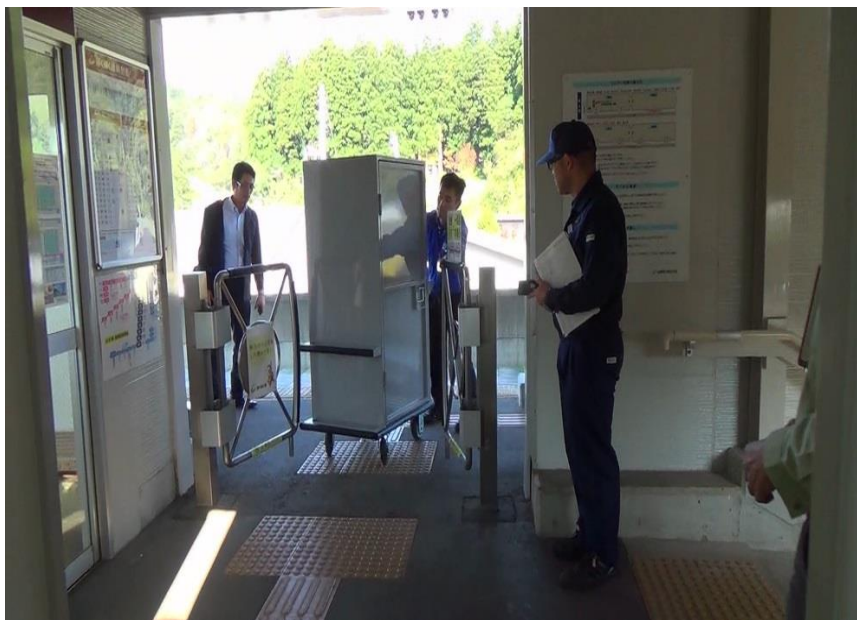
特別仕様のカーゴ

対応その1：安全の確保

現車を使用したトライアルやテスト運行の実施

試運転列車を設定し、カーゴの搬入から搬出までのトライアルを複数回実施することで、課題の改善と検証を実施。

また、実施日の1週間前から、お客さま周知を兼ねて、営業列車内に空のカーゴを載せ最終確認を実施。



駅ホームでの移動



列車への搬入

対応その2：お客さまにご理解頂くために

お客さまへの事前周知

事前に、車内放送やホームページ、運行情報システムテロップなどにより、お客さまへ周知を行い、ご理解を得られるよう努めました。

また前述のとおり、実施日の1週間前から、営業列車に空のカーゴを乗せることで、お客さまへ再度周知を図りました。



運行情報システムモニター

特徴②

列車運転士は、運転業務のみを行います



- トラックドライバー：カーゴの搬入・搬出・固定等
 - 列車運転士：列車の運転に専念
- ⇒ 両者の役割分担を明確化

対応：万が一に備えて

列車運転士に対する訓練

列車運転士は、列車運転業務のみを行うものの、万が一に備え、列車運転士がカーゴを車内から取り降ろしホームに固定できるよう、全列車運転士に訓練を実施



列車運転士は、カーゴをホームに取り降ろした後、ロックワイヤー（赤）でホームの柵にカーゴを固定

特徴③

北越急行（株）は、
カーゴ設置スペースの貸し出し業務のみ
を行っています



列車に載せるカーゴ数に関わらず、スペース使用料として毎月一定額を頂くことで、日々の事務作業を軽減しています。

車椅子スペースの1つを提供

【3】実施に向けて

日本初※の取り組みであったため、最初のうちは必要な手続き等がわからず苦労しましたが、北陸信越運輸局をはじめ関係の皆さまからアドバイスを頂き、一步一步進めてまいりました。

安全性確保のためのトライアルや関係事業者等との調整に時間やコストがかかりますが、平成28年10月に物流総合効率化法が改正され、この認定に向けて作業を進め、実際に認定を頂いたことで、鉄道事業法に関係する法律の許可等を受けたものとみなす等、事業開始時等の手続きが簡素化され、比較的スムーズに進めることができました。

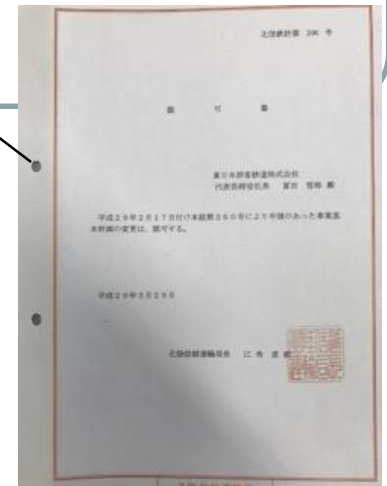
※宅配便貨物を第3セクターの鉄道事業者が運ぶことは日本ではじめて

貨客混載輸送の実施について、10以上の契約書等を作成しました。

契約等相手先：

佐川急便（株）、東日本旅客鉄道（株）、東日本旅客鉄道（株）新潟支社
南魚沼市など

東日本旅客鉄道（株）事業
基本計画の変更許可書



多くの関係の皆さまのご協力により実現することができました

【4】 効果と課題



【効果】

- 温室効果ガスの削減につながり地球環境の改善に貢献
 - 特に、少量の荷物の運搬に効果あり（トラック不要）
 - 夜間のお客さまの少ない時間帯の輸送余力を活用し収益向上
- ⇒関係者がワイン・ワインとなる、こうしたモーダルシフトが推進されることを期待

【課題】

- 雪害時の輸送及び搬送ルート確保
- 貨物輸送力の拡大
（列車への搬入・搬出設備の改善、
輸送行路の延長等） など

